H28. 10. 22 岩沼地区防災林再生に向けた活動実施報告（活動状況写真）

（一社）宮城県建設業協会

【千葉会長挨拶】

【守屋技術副参事祝辞】

【木皿市民経済部長祝辞】

【森専門監植樹方法説明】

【植樹活動】

【植樹活動】

宮城海岸林再生みんなの森林づくり活動
みんなでつくる3Aの防災林植樹活動
一般社団法人 宮城県建設業協会

海岸防災林再生へ

宮城建協
協定に基づき初の植樹式

東日本大震災で失われた白砂青松の美しい海岸を復活させようと、宮城県建設業協会（千葉嘉春会長）は22日、CSR活動の一環として宮城県岩沼市寺島地区の浜辺で「みんなでつくる3A（あんぜんに、あかるく、あたたかく）の防災林」植樹式を行った＝写真。

海岸防災林の再生に向けて、同協会が宮城県と岩沼市との間で締結した「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の協定に基づいて初めて植樹を実施した。基盤造成が完了した0・8㌶を対象に今回を含めて3年間で計4回、クロマツの苗木を植樹するとともに、今後5年間にわたり維持・管理などの活動を継続して行う。

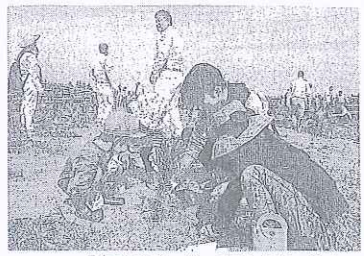
植樹式には会員企業の社員や家族、一般から公募した市民など140人が参加。あいさつに立った千葉会長は「この防災林が地域の安全を守り、明るく、温かいものとなるよう期待するとともに、こうした活動を将来にしっかり伝えていきたい」と述べた。

植樹の方法や注意事項の説明を受けた後、参加者は4班に分かれ、今回の予定地0・2㌶に苗木1000本を植栽した。

親子で参加した人たちは、無事に成長することを願いながら1本1本、丁寧に苗木を植えていた。

第2回の植樹式は来春に予定されている。

「大きくな～れ」



宮城建協の3A防災林
岩沼の海岸にクロマツ植樹

「大きくなーれ、大きくなーれ」――。宮城県建設業協会（千葉嘉春会長）は22日、岩沼市内の海岸で「みんなでつくる3A（あんぜんに、あかるく、あたたかい）の防災林」植樹式を開いた。

同協会と県知事、岩沼市長の3者が9月に締結した「海岸防災林の再生に向けた活動協定」に基づき実施する初めての植樹で、協会会員企業の社員やその家族ら約140人が参加した。

席上、あいさつに立った千葉会長は「防災林が地域の安全を守り、人々に対して明るく、あたたかいものとなるよう将来にわたって携わっていきたい」と語った。

この後、東日本大震災の津波により被災し、基盤造成が行われた海岸背後地約0.2㌶に抵抗性クロマツの苗木1,000本を植樹した。

同協会は20年度までの5カ年で海岸背後地約0.8㌶に約4,000本を植樹する予定だ。

150人参加で「3Aの防災林」植樹式

みやぎ海岸林再生森林づくり活動―

宮城県建協参加。津波で被災した海岸防災林再生のため、クロマツを1000本植栽した。千葉会長は22日、宮城県岩沼市と協定し、0・8㌶のエリアを5年間にわたり寺島字川向地区で植栽再生する計画。あんぜんに・あかるく・あたたかくの3Aの防災林を目指し、県民のみんなの森林づくり活動の一環として「みんなでつくる3Aの防災林」植樹式を開いた。

当日は、公開募集した県民約150人が公募の参加者が専用植栽用具を使いながら子供たちとともにクロマツコンテナの苗を植栽した。

また、受付のテント内では子供向けにクローラークレーンのラジコン操作コーナーが設置され、指導員が子供たちに操作方法を指導するなど、建設業界の仕事の楽しさや魅力も伝えた。

宮建協

お父さんたちが手際よく穴を掘り、子どもたちが苗を植えていった

140人で1000本

「3Aの防災林」植樹式

県建設業協会（宮建協・千葉嘉春会長）は22日、岩沼市寺島地区で第1回目の「みんなでつくる3Aの防災林」植樹式を開催した。CSR活動の一環で協会会員企業の従業員やその家族、一般公募の市民ら約140人が参加し、1000本のクロマツの苗を植樹。千葉会長は宮建協が展開する3A（あんぜんに、あかるく、あたたかい）活動になぞらえ、防災林が安全を守り、人々に対して明るく暖かいものになるよう、将来にわたって携わっていく」と力を込めた。

植樹は、9月に宮建協・県・岩沼市と3者で締結した「みやぎ海岸林再生みんなの森林（もり）づくり活動協定書」に基づく活動。大震災で被災し新たに基盤造成された岩沼市の海岸総面積0・8haに5年間で4000本の苗を植える。初年度の今回はこのうち0・2haが対象だ。

セレモニーでは、千葉会長が「皆さんには大震災を風化させることのないよう、植樹後も苗の成長を見に足を運び、そしてこの事業を通して将来にしっかり伝えてほしい」と述べた。

植樹式が始まると、140人の参加者と共に、東北森林管理局仙台森林管理署の齋藤哲署長、来賓の県農林水産部森林整備課の守屋智明技術副参事、岩沼市市民経済部の木皿光夫部長らも一緒に活動。津波からまちを守る立派な防災林に育ってほしいと、約1時間半にわたり汗を流した。植樹にあたり、会員企業のみか建設（加美町）と笹原組（大崎市）が事前準備に尽力している。

母親と参加した白百合学園小学校3年生の女の子は「土が硬くて大変だったけど楽しかった」と感想。初めての植樹だったそうで、次回も参加したいと話した。

2016年（平成28年）11月1日（火曜日）

河北新報

岩沼 県建設業協会も活動開始

東日本大震災で被災した岩沼市で、沿岸部の防災林を再生しようと県建設業協会が植樹活動を始めた。復旧・復興工事に全力を挙げるのはもちろん、出来上がった建造物を守る防災林造成にCSR（企業の社会的責任）活動の一環として取り組む。

協会は今年9月、防災林再生に向けた協定を県や市との間で締結。2020年度までの5年間、市沿岸部の0・8㌶の植樹と維持管理を担うことにした。

初回の植樹式が10月22日に現地であり、会員企業の従業員ら約140人が参加した。協定を結んだ土地のうち0・2㌶にドリルで穴を開け、県産クロマツの苗約1000本を植えた。

残る0・6㌶の植樹は来年、再来年に実施する。初回に植樹した参加者が再び現地を訪れることで、震災記憶の風化防止にもつながると考えた。

千葉嘉春会長は「復旧復興には業界の総力を結集して取り組んでいるが、防災林が安全を守るものになるよう将来にわたって携わっていきたい。参加者には今後も足を運んでもらい、震災をしっかり伝えていってほしい」と話した。

クロマツを植える千葉会長